

2009（平成21）年度活動報告

部会長 狩野 啓子

- 4月 文化財保存科学研究部会の実験室として100号館1階の部屋の使用が許可された。
上宮健吉がクララ種子の発芽テスト、前年度のポット苗の試栽培を開始。
- 5月 5日 狩野がローマでマリア・ヴェーラさんと面会。
松枝哲哉氏・松枝小夜子氏・溝田俊和氏・溝田直美氏が研究協力者として承認された。
上宮がザウテルシバンムシ羽化成虫による防虫実験を開始。
八女の近藤早苗氏栽培のクララ苗を松枝哲哉氏の仲介で田主丸の水田跡に30本移植。
近藤氏提供の4年生2本、3年生1本を茎、芯髓、韌皮にわけて抽出。
- 6月 9日 上宮と狩野が、筑邦銀行の西村氏、松田氏と八女伝統工芸館、溝田和紙を訪問。
その後、2名で藍生庵（松枝哲哉氏宅）を訪問。
13日 狩野が倉敷で開催された文化財保存修復学会に出席（14日まで）。
17日 上宮、ザウテルシバンムシ5ペアを人工飼料で飼育開始。
21日 上宮、狩野が、松枝小夜子氏と3名で中野三敏氏を訪問。
27日 定例研究会。
- 7月 3日 上宮が中野三敏氏宅で、古書害虫の発生調査。防虫試験のサンプル回収。
7日 溝田俊和氏、クララ和紙75枚納品。
- 8月 1日 定例研究会。
- 9月 10日 企画課の有馬氏、江上氏と藍生庵を訪問。
12日 上宮が、九州国立博物館主催平成21年度文化庁美術館博物館活動基盤整備支援事業による「市民と共に ミュージアム IPM」研修・ワークショップで講演。
26日 狩野が、九州国立博物館の上記研修会に参加。
- 10月 14日 上宮が、中野三敏氏提供の古書絵巻から1～2齢幼虫を採取し、幼虫
1齢15頭、2齢10頭を飼育し、コクゾウコバチの成虫メス6、オス4頭を放飼。古書
の害虫の天敵寄生蜂の開発に着手。
30日 狩野が近藤早苗氏、松尾茂美氏、溝田義秋氏、中原稔弘氏と面会。ビデオ撮影の依頼
と打ち合わせを行う。
- 11月 28日 九州国立博物館、「市民と共にミュージアム IPM」シンポジウムと交流会に参加。
- 12月 1日 定例研究会。松尾茂美氏、溝田義秋氏、松尾智明氏、中原稔弘氏のご協力により、
八女手漉き和紙伝統製法のビデオ撮影を実施。撮影終了後、交流会。
12日 大沼雅明、上宮、狩野、松枝小夜子氏の4名で、多久歴史資料館収蔵の藩文書の染色
和紙調査を実施。
- 1月 研究部会作成のビデオのチェック作業を行う。
- 2月 27日 桑野剛一「久留米餅をつくる藍菌」と題して、久留米餅保存協会主催の講演会で講演。
また、同日、継続開催した定例研究会に、東京藝術大学の稲葉政満教授を招聘して「生
紙と染色」と題する講演をしていただいた。
- 3月 書家の松田朴田氏に「筑後優品」のロゴを依頼。

28-29 日 上宮、文化財虫害研究所等で資料収集。

(文責 狩野 啓子)